るOB・OGの方々など、全ての方々の力あってのことです。心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

僕は個人戦にも出場したのですがベスト16でした。目標にはあと一歩届きませんでした。大学ではよりレベルの高い環境で死に物狂いで練習し、日本一を目指して頑張りたいと思います。

あきた総文祭、奨励賞受賞
問いを深めて

生物部　副部長　目黒（めぐろ）ことみ

生物部では、いくつかの研究班に分かれ、微生物を用いながら、自分たちで仮説を立て、研究に取り組んでいます。私たちPFAS研究班が研究を始めたきっかけは、秋田県内で基準値を超えるPFASが検出されたことでした。PFASは、さまざまな産業分野で利用されてきた一方、環境中で分解されにくく、蓄積する性質などが問題となっており、人体や環境への影響が懸念されている化学物質群です。高校2年次、私たちはこの問題を科学的に明らかにしたいと考えました。

最初に立てた問いは、「PFASは遺伝子に影響を及ぼすのか」というものでした。文献調査や実験を重ねる中で、「影響があるのなら、どのような影響だろう」という新たな疑問が生まれました。そこで、影響の有無だけでなく、その仕組みにも目を向けました。さらに専門家や他校の生徒から意見をいただく中で、PFASの問題を遺伝子への影響だけで捉えてよいのか、と考えるようになりました。環境中での蓄積や生態系への影響など、異なる視点から問題を捉える必要にも気づきました。

こうして研究を深めてきた成果を、「あきた総文2026自然科学部門研究発表生物部門」で発表しました。審査の結果、全国4～8位に相当する奨励賞をいただくことができました。

研究を始めた頃には、答えを見つけることが研究だと思っていました。しかし、一つの答えが次の問いを生み、その問いを追う中で、また新たな疑問が見えてきました。問いを深めるほど新たな問いに直面する。そのことに研究の面白さを感じています。



11大会ぶり全県優勝
最高の景色

卓球部　主将　三浦（みうら）大歩（たいと）

一年前の全県総体。連覇を続けていた秋田商業に決勝で敗北し、涙を流した先輩たちの姿と自らの感じた悔しさを、今でも鮮明に覚えています。あの敗戦からの一年間、来年こそは優勝するという気持ちを持って、毎日厳しい練習に励んできました。

その努力のおかげで、今年は、十一大会ぶりとなる団体戦での全県優勝を果たすことができました。さらに個人戦のシングルスとダブルスでも優勝することができ、チームで三冠という最高の形でインターハイへの切符を掴むことができました。

インターハイでは、団体戦で目標にしていた「一勝」を挙げることができましたが、シングルス・ダブルスでは悔しい結果に終わってしまいました。しかし、全国トップレベルを肌で直接感じられたことは、これからに向けてのとても良い経験になりました。そして、自分たちの卓球が全国でも十分に通用するという、確かな手応えと大きな自信を得ることができました。この結果を出せたのは、熱心に指導してくださった先生方や、いつも僕たちを支え、応援してくださった卓球部OB会の先輩方、毎日サポートしてくれた家族、そして支え合ってきたチームメイトたちのおかげです。

全国で味わった自信と悔しさを絶対に忘れず、来年も絶対に優勝して全県連覇を達成します。そして、次は全国の舞台でもっと勝ち上がれるように、これからも仲間と共に一生懸命練習に励んでいきます。応援よろしくお願いします。



